

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑩

1972(昭和47)年3月15日、新幹線の岡山開業にあわせて、四国初の特急列車が登場した。今回は、国鉄が発行した高松駅の記念入場券を紹介する。

約5時間36分、高松―松山が約3時間12分、松山―宇和島が約2時間19分。特急列車はまだ便数が少なかつたものの、四国内だけではなく中国・阪神方面との高速化を図った。

1972(昭和47)年3月15日、新幹線の岡山開業にあわせて、四国初の特急列車が登場した。今回は、国鉄が発行した高松駅の記念入場券を紹介する。

特急「しおかぜ」は7両編成で、1両がグリーン車、4両が指定席車、2両が自由席車であった。最高時速は95km(1987年から110km)。途中の停車駅は、新居浜、今治、松山、伊予大洲または八幡浜の4駅であった。その後、特急「しおかぜ」は停車駅を増加させながら、86(昭和61)年にステンレス製の185系を、90(平成2)年に制御付振り子車両の2000系を本格的に導入し、93年に初代の181系は現役を退いた。現在、特急「しおか

入場券は4枚組で、3枚が30円の大人用、1枚が10円の小人用である。封筒には山陽新幹線を図柄にした「鉄道100年記念」切手が貼られ、「宇和島駅前47.3.15」の消印が押されている。入場券には、①新幹線・宇高連絡船・181系特急②主要都市間の所要時間③特急「しおかぜ」

特急「しおかぜ」は、高松―宇和島を2往復、高松―松山を1往復し、最速で高松―宇和島を4時間34分、高松―松山を2時間41分、松山―宇和島を1時間50分で結んだ。当時、急行「うわじま」(高松―宇和島8往復、松山―宇和島1往復)、急行「いよ」(高松―松山5往復)の平均所要時間は、高松―宇和島が

四国特急新設記念入場券

高速化50年考える機会

「せ」は電化されて岡山―松山を結んでいる。

今年には四国に特急列車が登場して50年になる。現在、四国では新幹線の実現に向けた取り組みが行われている。これを機会に四国における鉄道的高速化や電化の歴史、人やモノの流れを振り返り、将来の在り方を考えてみてはどうだろうか。

(専門学芸員・平井誠)

△随時掲載します▽



彩り豊かな記念入場券。1972(昭和47)年発行